

国文化財でアート展示

滑川

若手芸術家3人 滞在の成果

滑川市に若手芸術家3人が滞在し、地域の自然や伝統文化に触れながら制作に取り組む「滑川アーティスト・イン・レジデンス」の成果展は18日、同市加島町の国登録有形文化財「田中小旧本館」や、「旧高嶋医院」で始まり、約1カ月間の滞在で浮かんだ発想を基に制作した力作が並んだ。

田中小旧本館 旧高嶋医院でも



作品を紹介する水野さん＝滑川市加島町の田中小旧本館



作品を紹介する湯川さん＝滑川市加島町の旧高嶋医院

詩人高島高の実家で、滑川最初の洋館建築である旧高嶋医院では、武蔵野美大3年の湯川爽海さん(24)が、五箇山和紙に着けた鉄粉に滑川の海水を吹き掛けてさびさせた作品、ガーゼと包帯に和紙を貼り付けた

作品を披露した。田中小旧本館では、名古屋出身の水野渚さん(35)が滑川と射水で採れたコシヒカリのもみ殻を焼いて作った色彩豊かなガラスの玉、ベトナム出身の即興演奏家ハ・トウイ・ハンさん(36)が滑川の美しい街並みから着想を得て制作した映像作品が展示された。

湯川さんは「作品をきっかけに建物や詩の面白さを知ってほしい」と話した。水野さんは「稲の産地や栽培方法によってガラスの色や音の大きさが違って面白かった」と述べた。ハンさんは「初めて日本に来た。ベトナムの伝統芸術を現代的に表現できた」と手応えを語った。滑川アーティスト・イン・レジデンスは昨年に続き2回目となった。26日まで。